

野球部の安藤が轢かれたのって
ラブホの駐車場やって
すごい大人やん安藤

うすしか(東京都)

野球部の安藤と噂を流す者、そしてそれを聞く私がいる。
この詩の独特な青春感は、三人がちゃんとそこにいるということにある。
また、それが詩の面白みに繋がることを理解した上で会話という形を取っている。
野球部の安藤がラブホの駐車場で轢かれたという丁寧過ぎる情報と繰り返される「安藤」
という固有名詞に対して、私とそれを噂する者の無色さ、すごい大人やんという無頓着な
言い方。この濃淡で詩を成立させている。

すきでいることの
くるしさ歩けなさ
かみの毛いっぽん
ぬいてわすれる

白野(新潟県)

一読して漢字とひらがな表記の中にすごく揺れのある詩だと思った。
一般的には、漢字の方が印象に残ってひらがなの方は流れやすい。
この詩でいうと、〈歩けなさ〉と〈毛〉というのがパッと目に入ってくるフレーズにな
る。
しかし、物語の重要度で言えば「すきでいることのくるしさをわすれる」ということにな
るはずだ。
ただ、それらは全てひらがな表記であえて流れるように綴っている。
そして、この詩を改めて読むとき、詩においての重要度はやはり〈歩けなさ〉と〈毛〉に
あることに気付く。
「すきでいることのくるしさをわすれる」ということではなく「かみの毛いっぽんぬいて
歩けた」ことに詩情があることが分かる。この間抜けな詩情に、流れるように「すきでい
ることのくるしさ」が乗せられているところが巧い。

わかった、と
君が頷く夢を見た
頭蓋に海はあるのだろうか

さいう(愛知県)

〈わかった、と君が頷くこと〉それがたとえ夢であってもそれを詩にすること。また、そ
こに海を連想してしまうこと。そこに作者の〈君〉に対する尊さを感じた。
頭蓋に海があるようにゆっくりと傾くように頷いたのか、頭蓋に海でもないと言えないよ
うな静かな人なのか、
またそう思ってしまうほど決して頷かないようなことを投げかけたのか。

中山俊一